

msn Merry Xmas Web 検索
【約10秒の審査回答】→ほのぼののレイク1日前2.0
現金1000万円大抽選
【質問】
本当に当たるの？
過去5人が当選してます

ニューヨークを歩く-第2回：ピレージからミッドタウン南部へ(1)-
2001年11月30日
吉田 朱見



同時多発テロから2ヶ月あまり。炭そ菌恐怖やアメリカン航空機墜落など相次ぐ事件事故のなかニューヨークの人や街はどのような表情を見せているのだろうか。テロ直後、マンハッタンから現地の様子をなまなましく伝えたNY在住ライター吉田さんが、ニューヨークの街を歩いた。

参考地図：Microsoft(R) Encarta(R) 百科地球儀 2001 (地図をクリックすると拡大表示します)

名前はふせるが、FBIの職員(シークレットエージェントではない)と話をする機会があった。

FBIに動めているというだけで、「テロリストがミッドタウンの××を爆破するって話があるけど、本当かどうか確かめてほしい」といった類いの電話が、家族や知人などから頻りに自宅に寄せられる。そのたびに「一般市民がそこまで詳しく知っている情報なら、とくにFBIは知っている。もしそれが本当だとしても、すでに爆弾は取り除かれているだろうから、心配しなくていい」と言ってなだめるのだが、大概(たいがい)はそれでは聞かない。「分かった。じゃあ、調べてやるから」ということでやっとな得してもらった。

「困ったもんだ」と彼は苦笑した。こうしたうわさが、人々の不安な心に揺さぶりをかけている。うわさに敏感になっているといってもいいだろう。しかし、「××橋が次に狙われている」と聞けば、そこは渡らないでおこうと思うのも人情だ。なにも責められたことはない。

アメリカでは11月22日の感謝祭から4連休となるところがほとんどで、家族や知人を訪ねたりと、毎年この時期には移動する人が増える。が、今年は車や電車を使う人が増加、飛行機の利用者数は20%減少とニュースが伝えた。この感謝祭を境に、街は年末に向けてホリデーシーズンに入っていくが、9月のテロで多大な打撃を受けた航空業界、旅行業界にとっては、やや苦しい年越しとなりそうだ。

そんな中でも、ニューヨーク人の日常は元気である。少なくとも、街では沈痛な雰囲気は感じられない。今回は、第1回の終点チャイナタウンから西方へ。ダウントウン・ピレージからミッドタウン南部を見てもらおう。

●夜にいっそう元気の街、ピレージ

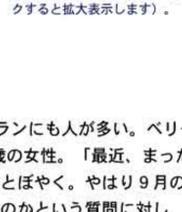


騒がしい夜のピレージ。大きなショッピングバッグを抱える人々の姿もちらほら見受けられる(画像をクリックすると拡大表示します)。

おしゃれな店、話題のレストランなどが集まり、観光客達にも人気のピレージ。ニューヨーク大学のキャンパスもあり、若者が集まる街として知られる。通りはいつものような混雑で、和気あいあいと会話を交わすグループがいくつも通り過ぎていく。ホリデーシーズン間際とあってか、大きなショッピングバッグをかかえる人達も見受けられる。

景気の影響で、消費の下落を懸念する声も聞かれるが、クリスマス祝う人にとってプレゼントはなくてはならないもの。1年中、クリスマスのためのプレゼントを探しているという人もいる。大袈裟(げざ)な話ではない。見つけた時に買って置き、それをクリスマスまでためておこう。

レストランが並ぶストリートも多く、まだ気候が許すせいか、店の外側の通りにテーブルを並べるレストランもある。ブリーカーストリートとラガーディアストリートの角では、店内からこぼれるロックミュージックのサウンドが騒々しい。開放たれたドアからは、楽しそうにビールを飲み交わす若者のグループが見える。土曜の夜とあって、どこも込み合い、楽しそうに食事する姿は平和そのものだ。



例年に比べ異常と云えるほど暖かい気候のせいで、レストラン屋外のテーブルで食事をを楽しむ人々の姿も多い(画像をクリックすると拡大表示します)。

ビール片手にバーの外に立って友人達とおしゃべりする若者達もいる。とにかく楽しそうである(画像をクリックすると拡大表示します)。

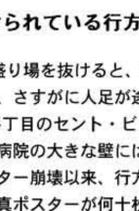
中近東料理のレストランにも人が多い。ペリダンサーだという36歳の女性。「最近、まったく仕事の依頼がないわ」とぼやく。やはり9月のテロの影響が出ているのかという質問に対し、「今は、中東関係のものは誰も見たくなくて感じなんじゃないかしら」という答え。確かにペリダンサーは中近東の踊りである。が、恒例のハロウィーンパーティーなどを取り止めたレストランなどもあり、ペリダンサーに限らずこうしたショービジネス全体に、景気や、派手なものは憤もうという姿勢が影響しているようだ。だからといって、彼女には悲惨な響きはない。「今、バイトを探してるんだけど、そっちなないわね?」。なんだが、こっちが心配になってきた。

6番街に出ると、「Money Is For Education Not for War(お金は戦争のためではなく、教育のために使おう)」という看板を掲げた男性が街行く人々にちらしを配っている姿が目についた。宗教関連や慈善団体などがちらしを配る姿は以前からよく見られたが、テロ以降とみにその数が増えた。暴力・戦争反対をポリシーとして掲げる団体に属するという彼は、あくまでも調和と和解が世界を救うと主張する。ちらしの内容は、9月のテロ被害者の冥福と世界平和を祈るための集会のお知らせだ。花とキャンドルを持って静かにダウントウンを行進する予定らしく、反戦デモといった過激な様子はない。しかし、街行く人達は、友人達とのおしゃべりに夢中で、足を止める人は少ない。

観光客に人気のジャズクラブ「ブルーノート」。しかし、この日は向かいにあるナイトクラブ「ピレージ・アンダーグラウンド」の長蛇の列に比べるとやや元気がない様子。「ブルーノート」の前には数人しか人がいないのである。ところが、店の外でチケット整理をしている男性にいわせると「そんなことはないよ。今日のショーは2つとも売り切れ。満員で今からじゃ、もう入れないよ」とのこと。ショーが始まっていたので、列がないだけの話だった。最近あまり派手な話題は聞かないが、今もよく混んでいるらしい。



「ピレージ・アンダーグラウンド」。隣の駐車場の中まで続く長蛇の列(画像をクリックすると拡大表示します)。



依然として人気の「ブルーノート」。満員で、ショーのチケットは既に売り切れ(画像をクリックすると拡大表示します)。

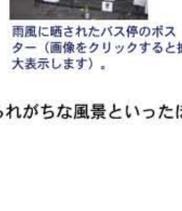
●病院の壁に今も貼り続けられている行方不明者達の写真



セント・ビンセント病院の壁に貼られた行方不明者の写真ポスター。通りから少し奥に入った一角で、空気が重々しい(画像をクリックすると拡大表示します)。

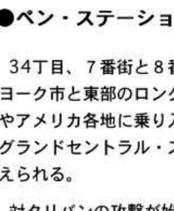
盛り場を抜けると、夜がふけていることもあり、さすがに人足が途絶える。ここは7番街と14丁目のセント・ビンセント病院。一角を占める病院の大きな壁には、今もワールドトレードセンター崩壊以来、行方の分からない人々を尋ねる写真ポスターが何十枚と貼り続けられている。夜、人陰の少ない一角だけに、大量に並ぶポスターがもしまし出す空気は重々しい。数ある写真の中に知った会社の名前を見つけると、胃のあたりをキュッとつかまれたような痛みが走る。

病院の向かいの角に立つバス停のガラス戸にも、同じようなポスターが貼られているが、こちらは9月以来雨風に晒(さら)されてぼろぼろになった写真が、いっそうの哀愁を誘っていた。



雨風に晒されたバス停のポスター(画像をクリックすると拡大表示します)。

人が集まる場所は活気に溢(あふ)れているが、一つ角を曲がると、寂しい情景が現れる。が、これはテロの影響というより、都会によく見られがちな風景といったほうが正しいだろう。



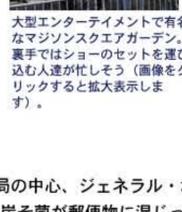
交通の激しい7番街と24丁目の角。いつも通り黄色いタクシーが目立つ(画像をクリックすると拡大表示します)。

ここから7番街をさらに北へ向かう。並ぶ店舗には、星条旗を掲げているところが多い。とある靴屋のショーウィンドウでは、無数の小さな星条旗をモチーフにして、ハイヒールなどの靴を展示している。ここまでやればあつぱれというところか。大通りである23丁目の角に出ると、従来通りの車の往来、しきりに響きわたるクラクションの音など、騒々しさは普段通り。あまり変化は見られない。

●ベン・ステーションでのハプニング

34丁目、7番街と8番街の間に位置するベン・ステーションは、ニューヨーク市と東部のロングアイランドを結ぶロングアイランド・レールロードやアメリカ各地に乗り入れているアムトラック(長距離鉄道)などが集まり、グラッドセントラル・ステーションと並んでニューヨークの主要駅の一つに数えられる。

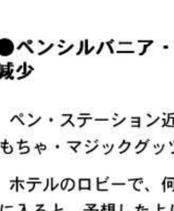
対タリバン攻撃が始まってからというもの、市の要所要所では警官やアーミー服の兵士が良く見られるようになったが、ここベン・ステーションの地下街もその例にもれず兵士が2~4人程固まって、各所を警備している姿が見られた。その1ヶ所をカメラに納めたのだが、その直後、警官の一人にカメラを取り上げられそうになった。



大型エンターテイメントで有名なマジソンスクエアガーデン。裏手ではショーのセットを運び込む人達が忙しそう(画像をクリックすると拡大表示します)。

「おもしろ半分写真をとっているだけだと思うけど、我々の行動を外にもらす原因になるようなことは些細(ささい)なことでも見逃せないんだ」つまりは兵士達がどこにいるかということが分かるような写真は撮るなどということらしい。あまりにも突然のことだったので、さすがにおろおろしてしまっただけ、とにかく他意はないということの説明して許してもらった。そういうわけで、ここでの撮影は断念することになった。

ベン・ステーションの地下から上に出ると、そこはミュージックコンサートの会場として様々なエンターテイメントの会場とつながるマジソンスクエアガーデン。裏手では、ショーの大型セットを運ぶ人々が声高に叫びあい、忙しく働いている。ちょっと声をかけられる雰囲気ではない。



青空に映えるジュネラル・ポストオフィスのビル(画像をクリックすると拡大表示します)。

その正面が市の郵便局の中心、ジュネラル・ポストオフィスのビル。炭そ菌が郵便物に混じっていたり神経質になったが、そうした心配をよそに、今日もこの美しいビルは堂々と青空を背景にそびえ立つ。

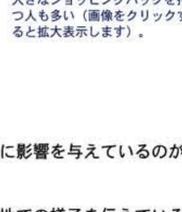
炭そ菌恐怖のために、市最大の郵便物分配所、モーガン・ファシリティを閉鎖するかどうかで、労働組合と市がもめたが、結局は閉鎖されることなく同所での業務は続けられた。が、そこで働く職員の不安は回り知れぬのがあと同じ時に、彼等の勇気には賛辞が送られてきた。これだけ炭そ菌が騒がれながらも、一般の郵便の流れに大きな乱れが起きないのは驚きに値するといっても過言ではなからう。

ただ、受取った郵便物を電子レンジにかけてから開封しているという人や、社内で処理していた郵便物の発送を一時的にアウトソーシングしたという会社が存在することも事実であるが……。ある州で、ジョークのつもりで白い粉の入った封筒を叔父に郵送したところ、激怒した叔父さんが警察に通報、冗談の過ぎた甥(おい)は逮捕されるはめに、という話もあった。

●ペンシルバニア・ホテルのコンベンション、州外からの参加者が減少

ベン・ステーション近くに位置するペンシルバニア・ホテルでは、恒例のおもちゃ・マジックグッズのコンベンションが開かれていた。

ホテルのロビーで、何度も警官や軍の制服とまとった人達とすれ違う。会場に入るの予想したよりも人の入りは多そうである。しかしニューヨークに住むディーラーの1人が、「去年のほうがよかったね。今年は、客が少くないよ。特に州外からくる人達がね」と、教えてくれた。昨日から同ホテルに泊まり込んでいたというデラウェアのディーラーは、「今年の夏ごろにホテル代を聞いた時は一泊200ドル弱だったんだけど、9月のテロがあった後、頼みもしないのに、ホテル側が宿泊代は108ドルだって言ってきたんだ」という。このホテルに限らず、テロによって打撃を受けたホテル業界では、宿泊料の値下げを実施しているところが多い。



大型デパート、メーシーズの前。ショッピング街とあって、大きなショッピングバッグを持つ人も多い(画像をクリックすると拡大表示します)。

コンベンションに興味で参加したという警官に偶然出会った。彼は通常ダウントウンの勤務ではないのだが、現在、週に3回グラウンドゼロの警備に当たっているという。

「空気が悪いし、あそこで働くのは憂鬱(ゆううつ)な気分だね」

やはりこれが本音であろう。さらに「観光地みたいに、人はいっぱい押し寄せさせてくるし……」とため息まじりに付け加えた。

ペンシルバニア・ホテルから2ブロック北に上がると、クリスマスの定番映画「Miracle on 34th St」でも知られる大型デパート、メーシーズに出る。人込みを縫うようにして歩いていくと、ホリデーシーズンに向けて大きな買い物袋を下げる人々が目につく。人通りが多いストリートだけに、スリなどに注意してほしいといわれている場所だが、以前からの活気が失われていない姿を見るのはうれしいものだ。

人と話すと、テロや炭そ菌恐怖が様々な形で生活に影響を与えているのが分かる。

テロで職を失った人達も多く、ニュースは毎日戦地での様子を伝えている。しかし、街に出れば早々とクリスマスソングが聞かれるところもあり、すでにクリスマスライトの飾り付けを終えた店や住宅もある。どうやら、「眠らない街・アップル」は、めげることも知らないようである。

(「第3回ミッドタウン北部からアップタウンへ」)に続く。掲載は来週の予定です)